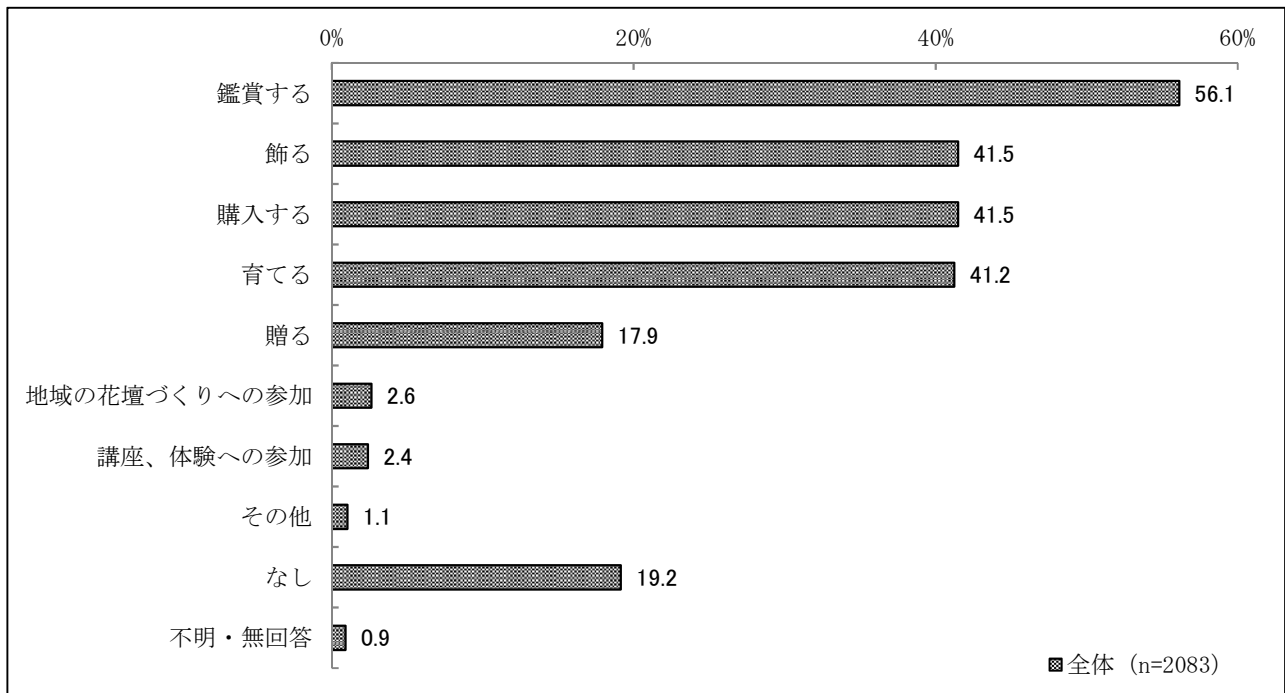


3. 新潟市の「花」や「花育」について

(1) 花や植物に触れる機会

問9 あなたが、日常生活で花や植物に触れる機会は、次のうちどれですか。(〇はいくつでも)



— 5割半ばが「鑑賞する」 —

【全体結果】

「鑑賞する」(56.1%)、「飾る」(41.5%)、「購入する」(41.5%)「育てる」(41.2%)の割合が高く、4割以上となった。次いで、「なし」(19.2%)、「贈る」(17.9%)が1割台で続く。

【属性別結果】(次ページ図3-1参照)

① 地区別

「鑑賞する」と回答した割合は、西区(61.1%)で最も高く、すべての地区で5割を超えた。

「飾る」「購入する」の割合は、南区(各47.2%、45.6%)で高く、「育てる」の割合は江南区(51.4%)で高い。

② 性別

男女とも「鑑賞する」と回答した割合が最も高く、次いで多かったのが、男性では「育てる」(35.5%)、女性では「飾る」(51.3%)という結果となった。

③ 年齢別

70～74歳で「鑑賞する」(65.3%)と回答した割合が最も高く、6割半ばとなった。「鑑賞する」「飾る」「購入する」「育てる」は、年齢が高いほど割合も高くなる傾向にある。

図 3-1 花や植物に触れる機会（地区別/性別/年齢別） 1/2

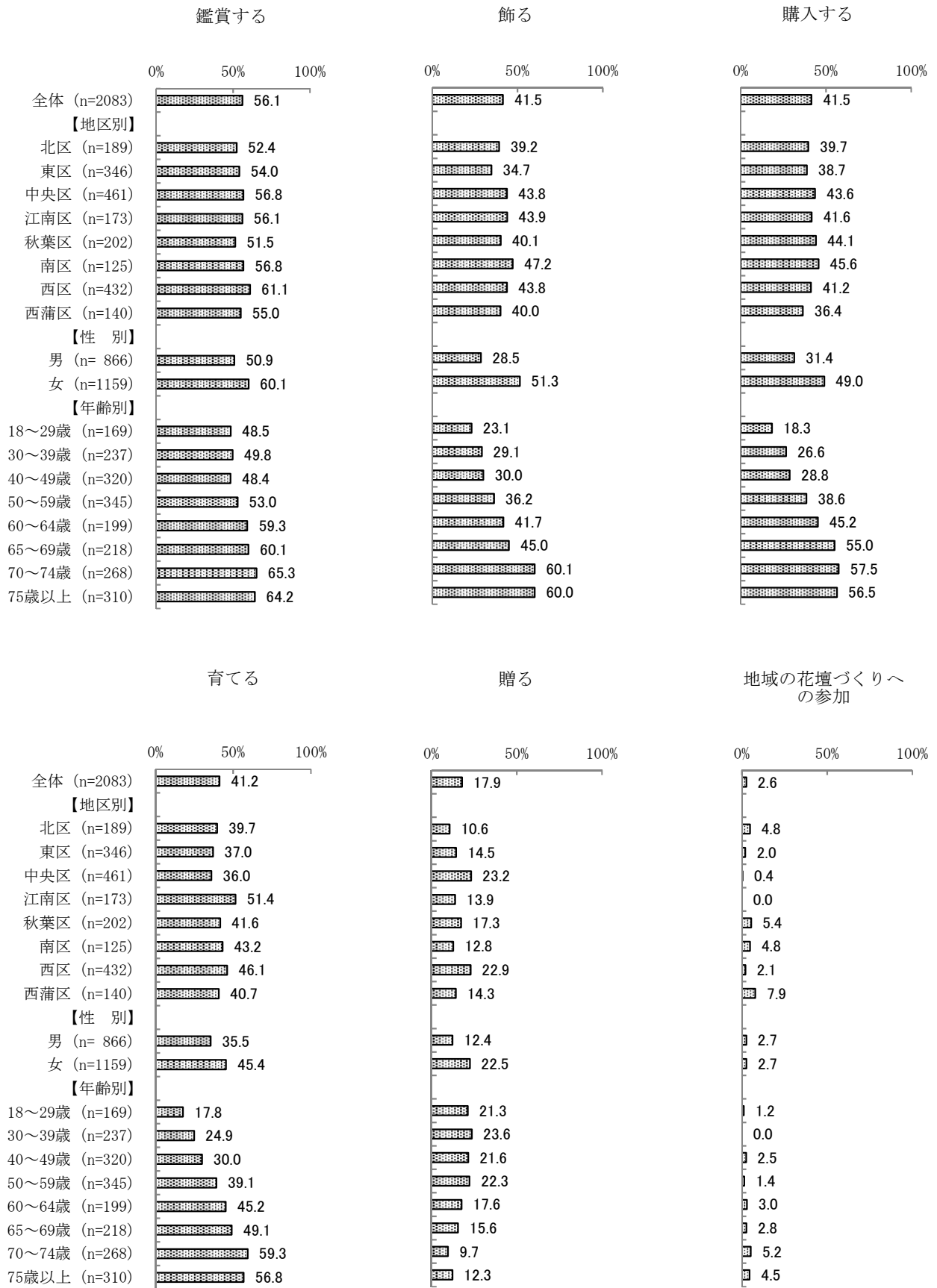
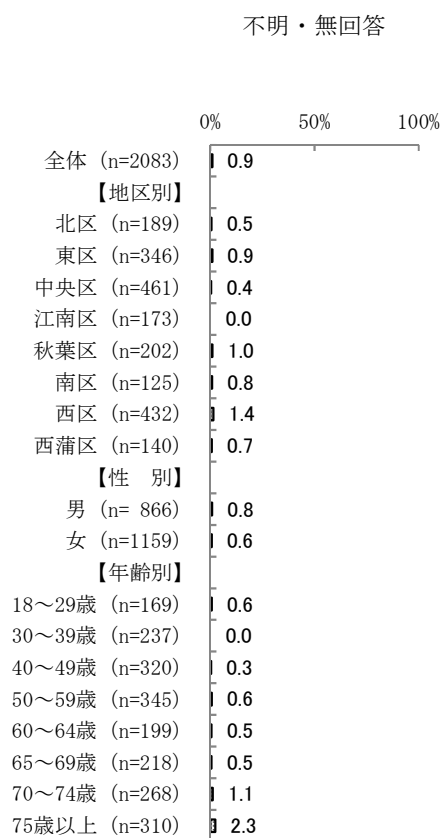
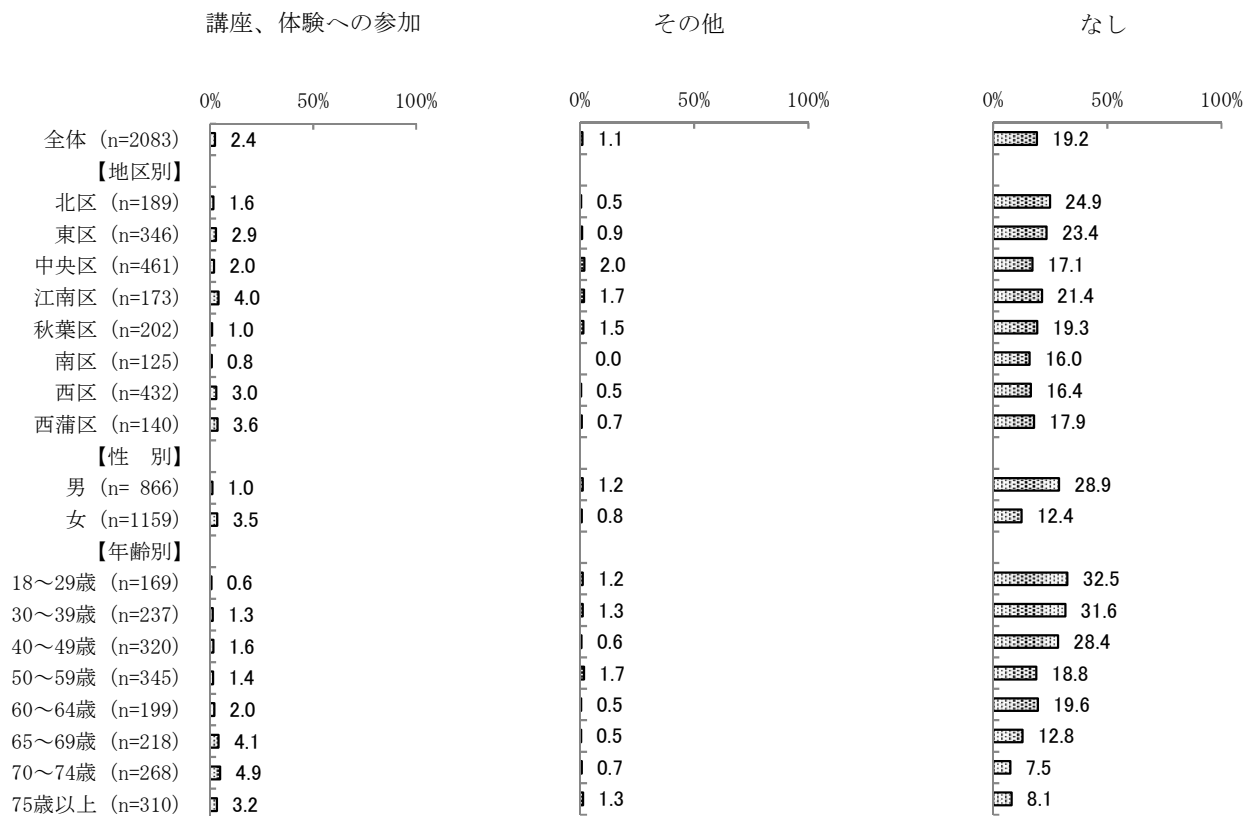


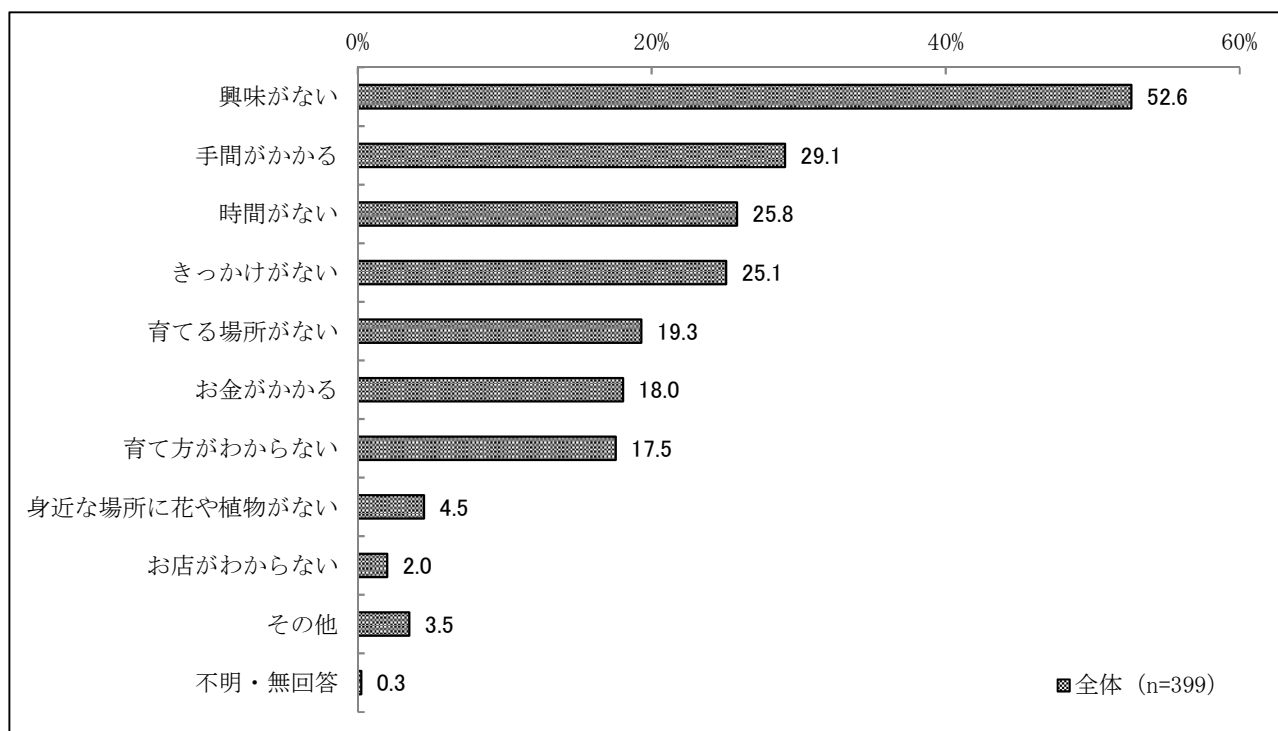
図 3-1 花や植物に触れる機会（地区別/性別/年齢別） 2/2



(2) 花や植物に触れる機会がない理由

問10 上記問9で「8. なし」と回答した方へ質問です。

あなたが、花や植物に触れる機会がない理由としてあてはまるものは、次のうちどれですか。
(〇はいくつでも)



— 約5割が「興味がない」 —

【全体結果】

「興味がない」(52.6%)が最も高く5割を超え、「手間がかかる」(29.1%)、「時間がない」(25.8%)、「きっかけがない」(25.1%)が2割台で続く。

【属性別結果】(次ページ図3-2参照)

① 地区別

「興味がない」の割合は南区、西蒲区(各60.0%)で高く、6割だった。

② 性別

「興味がない」は、女性(37.5%)と比較して男性(61.6%)で割合が高い。

③ 年齢別

「興味がない」の割合はすべての年代で高く、60～64歳で7割を超えた。65～69歳では、「興味がない」、「育てる場所がない」(各39.3%)が最も高く、約4割となった。

図 3-2 花や植物に触れる機会がない理由（地区別/性別/年齢別） 1/2

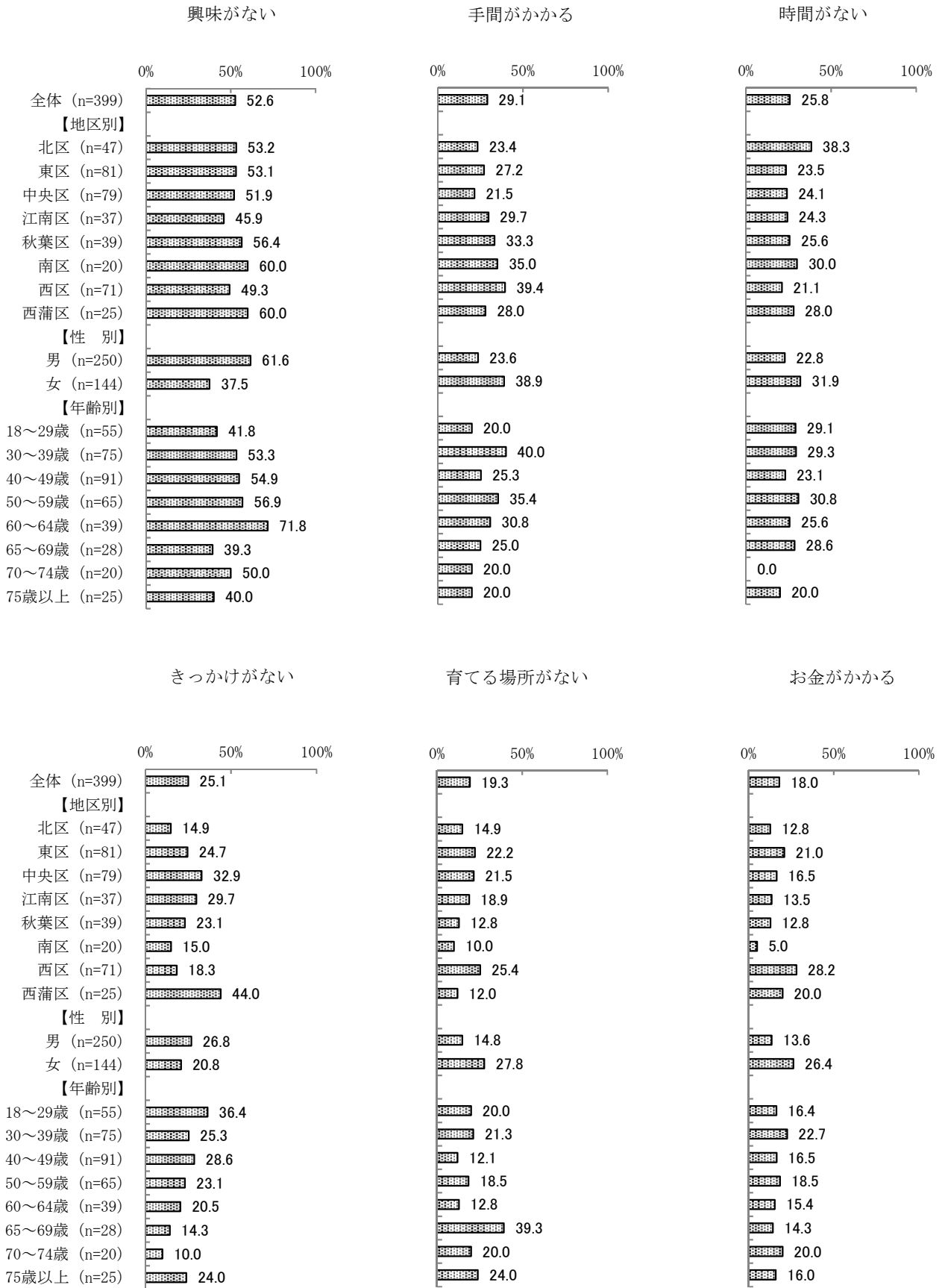
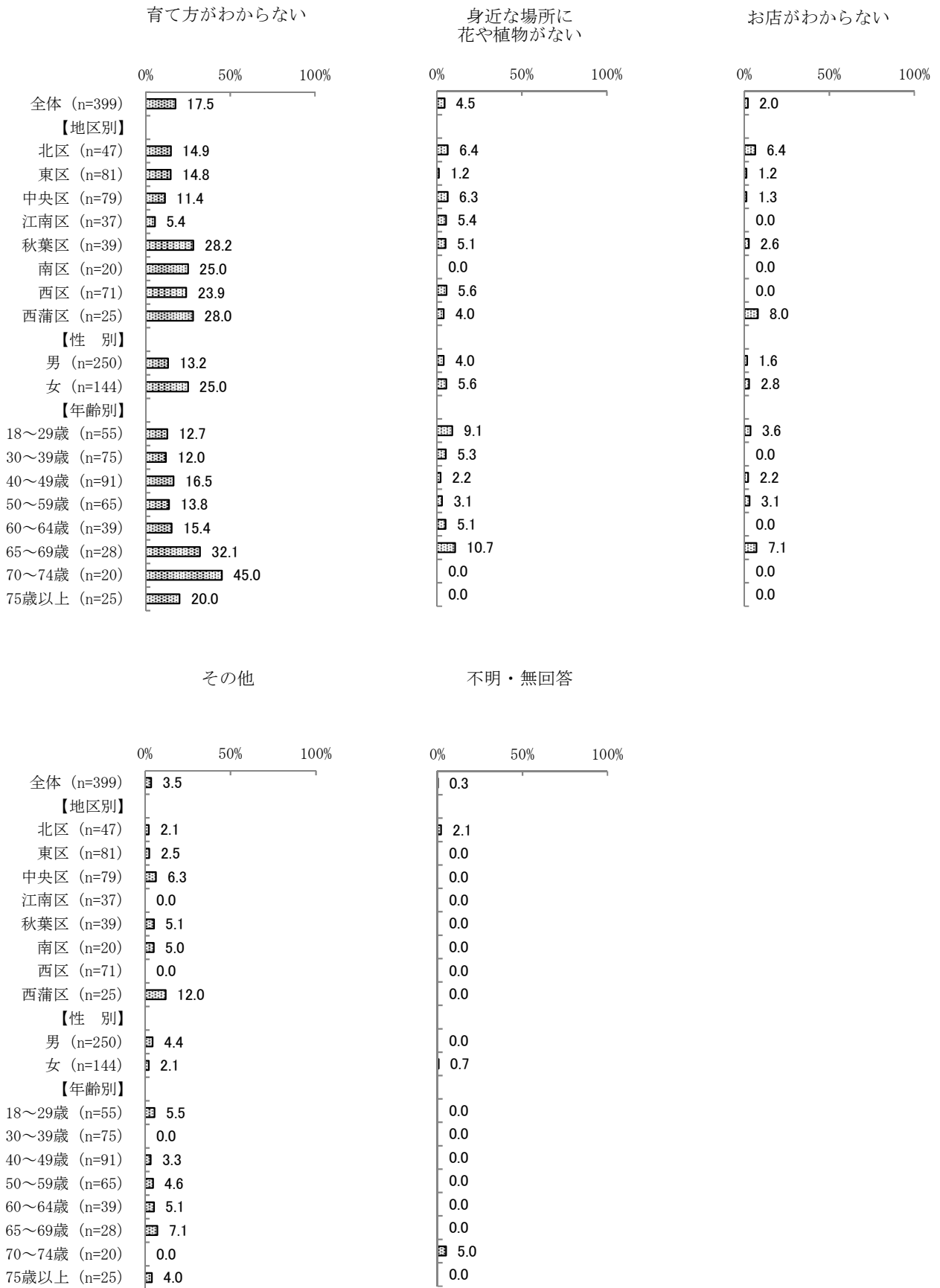
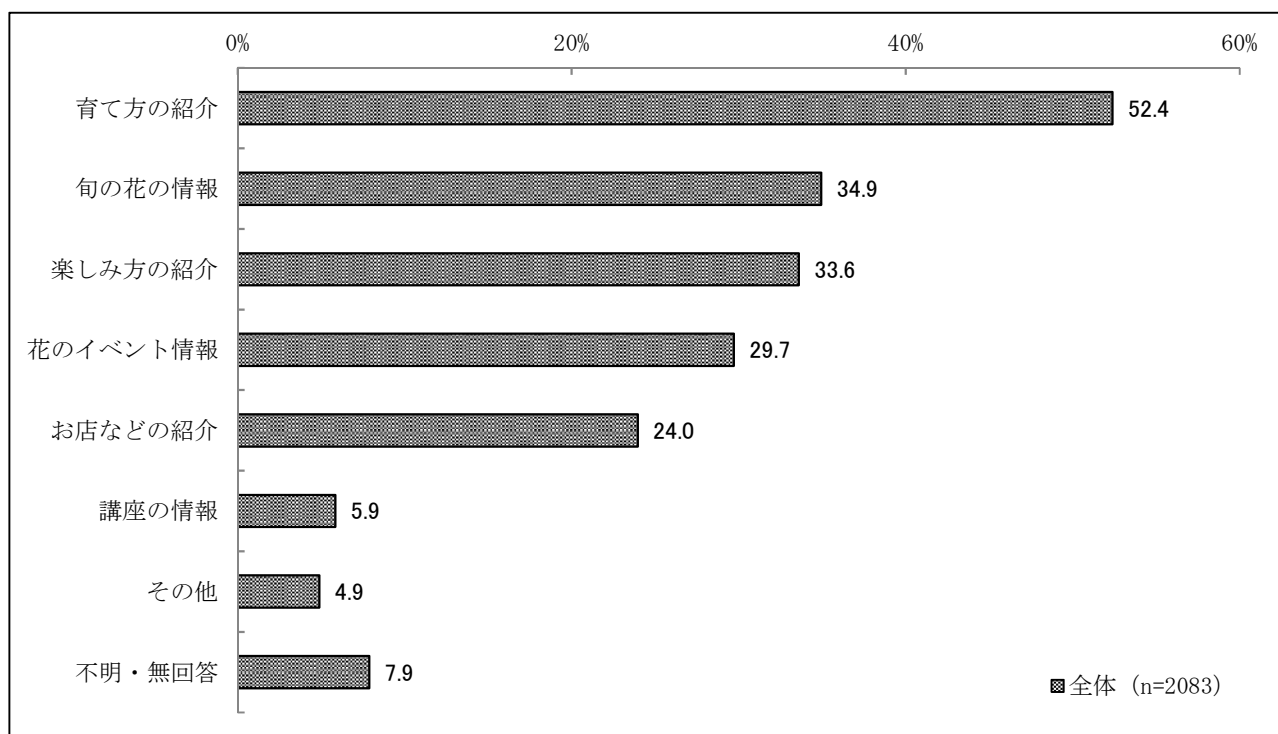


図 3-2 花や植物に触れる機会がない理由（地区別/性別/年齢別） 2/2



(3) 花や植物に関して、欲しい情報

問11 あなたが、花や植物に関して、欲しい情報は次のうちどれですか。(〇はいくつでも)



— 「育て方の紹介」が5割以上 —

【全体結果】

「育て方の紹介」(52.4%)の割合が最も高く、5割強となった。次いで、「旬の花の情報」(34.9%)、「楽しみ方の紹介」(33.6%)が3割台、「花のイベント情報」(29.7%)、「お店などの紹介」(24.0%)が2割台で続く。

【属性別結果】(次ページ図3-3参照)

① 地区別

「育て方の紹介」については、西蒲区(58.6%)で最も高く、約6割となった。「旬の花の情報」についても、西蒲区(45.0%)で割合が最も高く、「楽しみ方の紹介」については、南区(37.6%)で割合が最も高かった。

② 性別

「育て方の紹介」、「旬の花の情報」、「花のイベント情報」については、男性(各47.0%、31.8%、22.3%)と比較して女性(各56.7%、37.7%、35.2%)で割合が高い。

③ 年齢別

「育て方の紹介」の割合は、65～74歳で割合が高く、6割を超えた。「楽しみ方の紹介」では18～29歳(46.2%)で割合が最も高い。

図 3-3 花や植物に関して、欲しい情報（地区別/性別/年齢別） 1/2

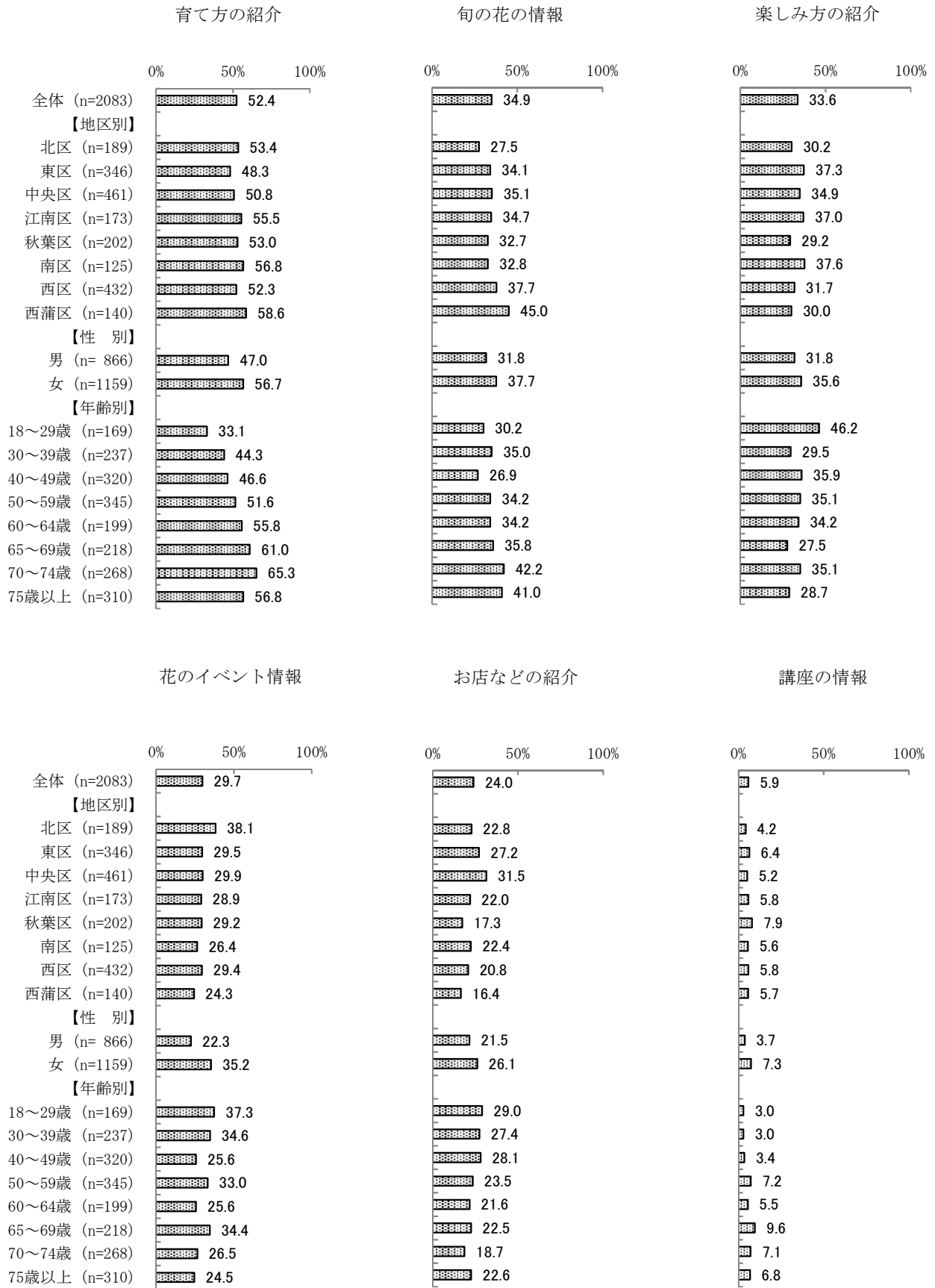
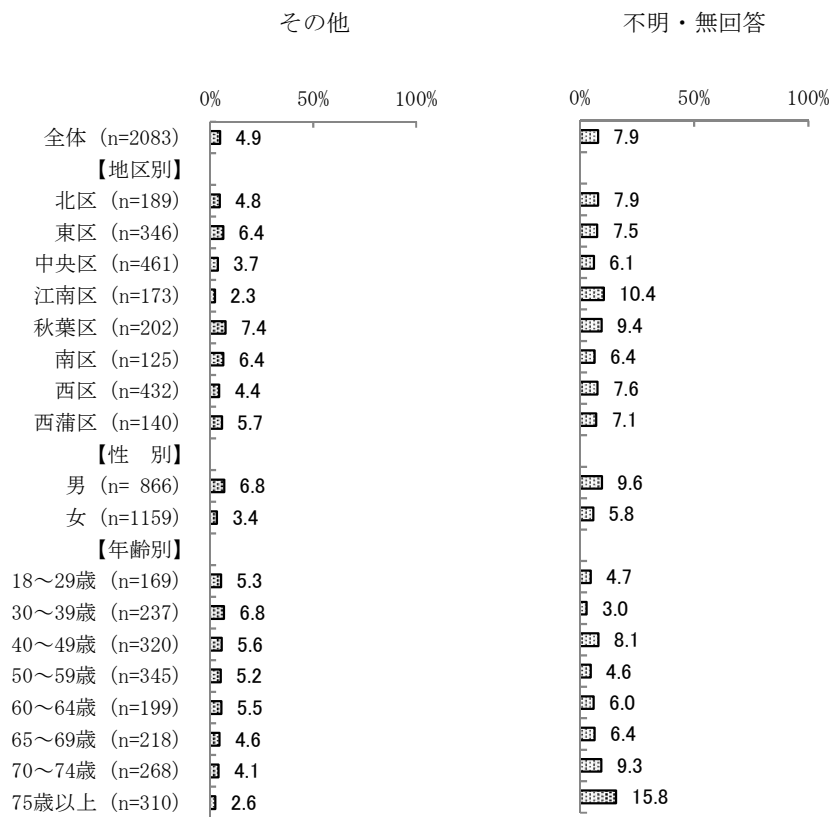
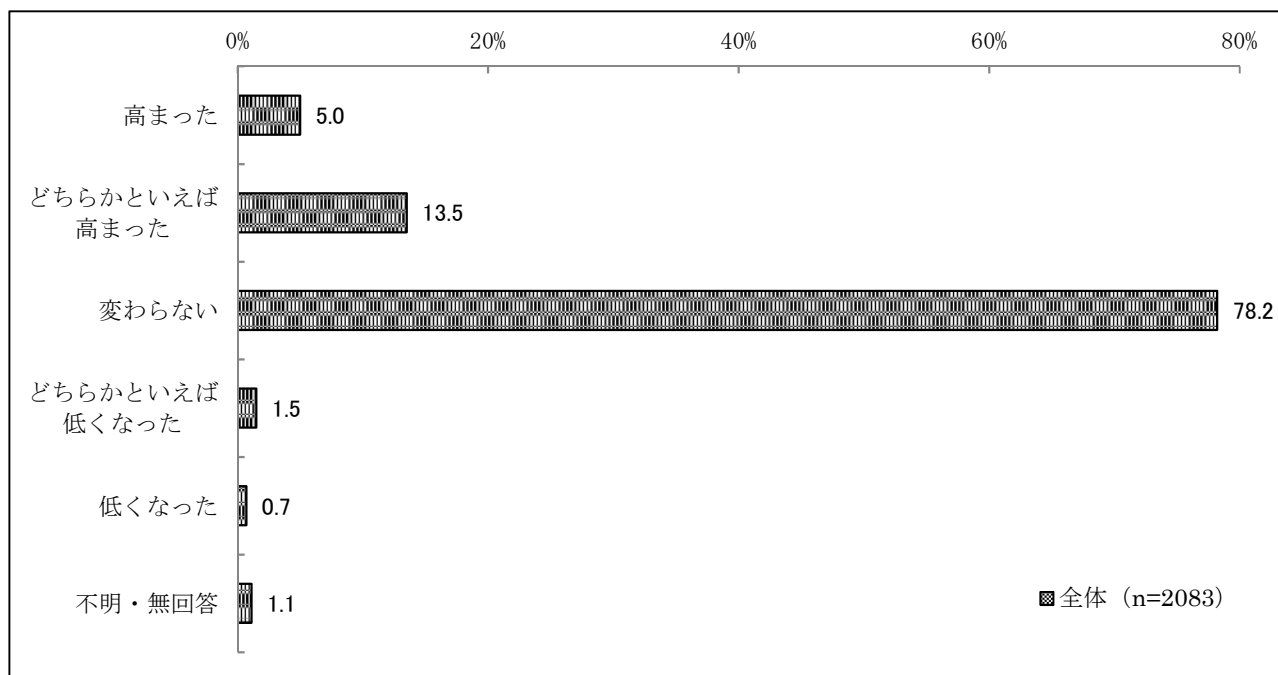


図 3-3 花や植物に関して、欲しい情報（地区別/性別/年齢別） 2/2



(4) 新型コロナウイルス感染症による花や植物への関心の変化

問12 あなたは、新型コロナウイルス感染拡大による日常生活の変化により、花や植物への関心が高まりましたか。(○は1つだけ)



— 『高まった』は約2割 —

【全体結果】

「高まった」(5.0%)、「どちらかといえば高まった」(13.5%)を合わせた『高まった』(18.5%)は約2割となった。「変わらない」(78.2%)が最も高く、約8割となった。

「低くなった」(0.7%)、「どちらかといえば低くなった」(1.5%)を合わせた『低くなった』と回答した割合は(2.2%)とわずかであった。

【属性別結果】(次ページ図3-4参照)

① 地区別

『高まった』と回答した割合は、東区(21.1%)で最も高く、2割を超えた。

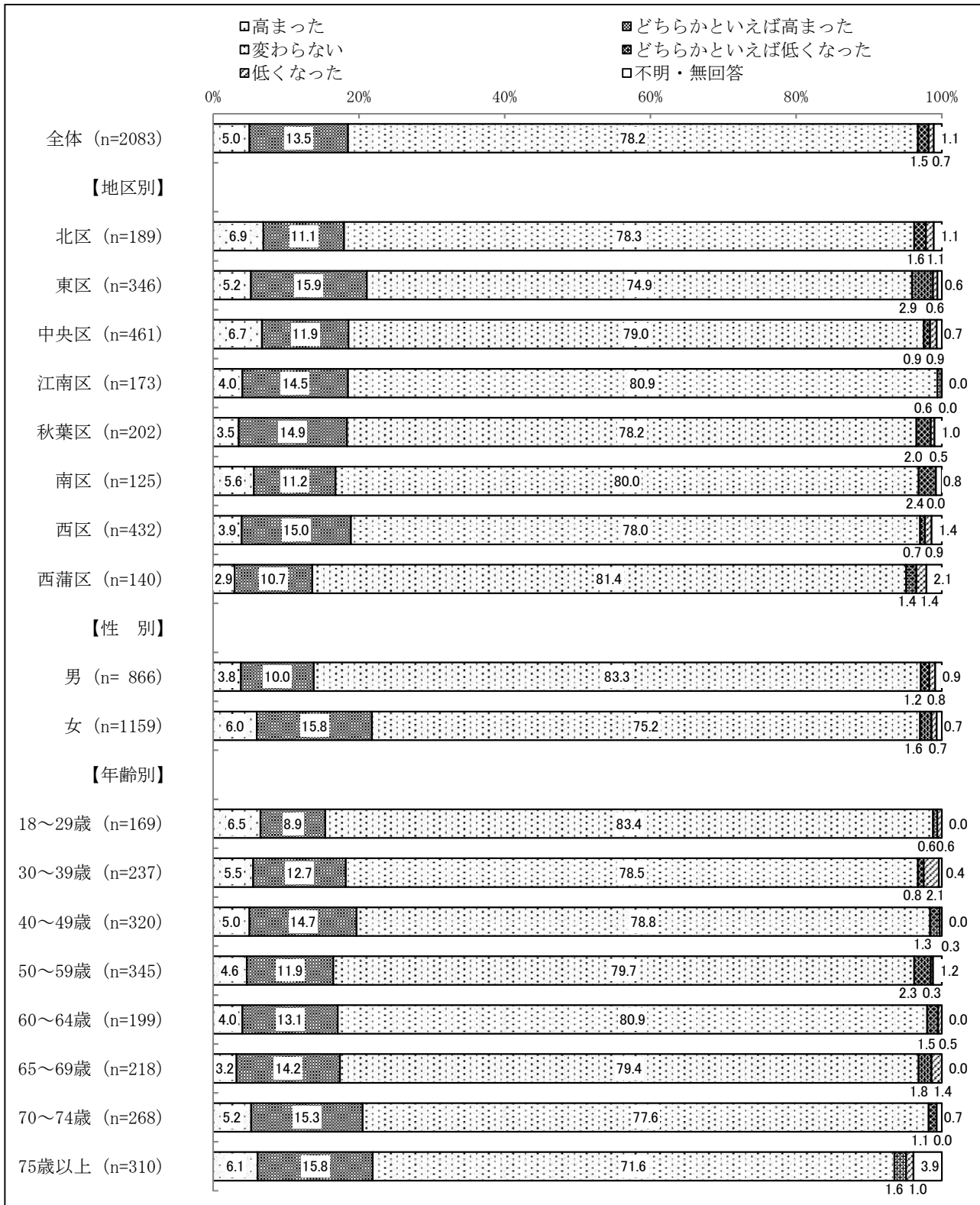
② 性別

『高まった』と回答した割合は、男性(13.9%)と比較して女性(21.7%)で割合が高い。

③ 年齢別

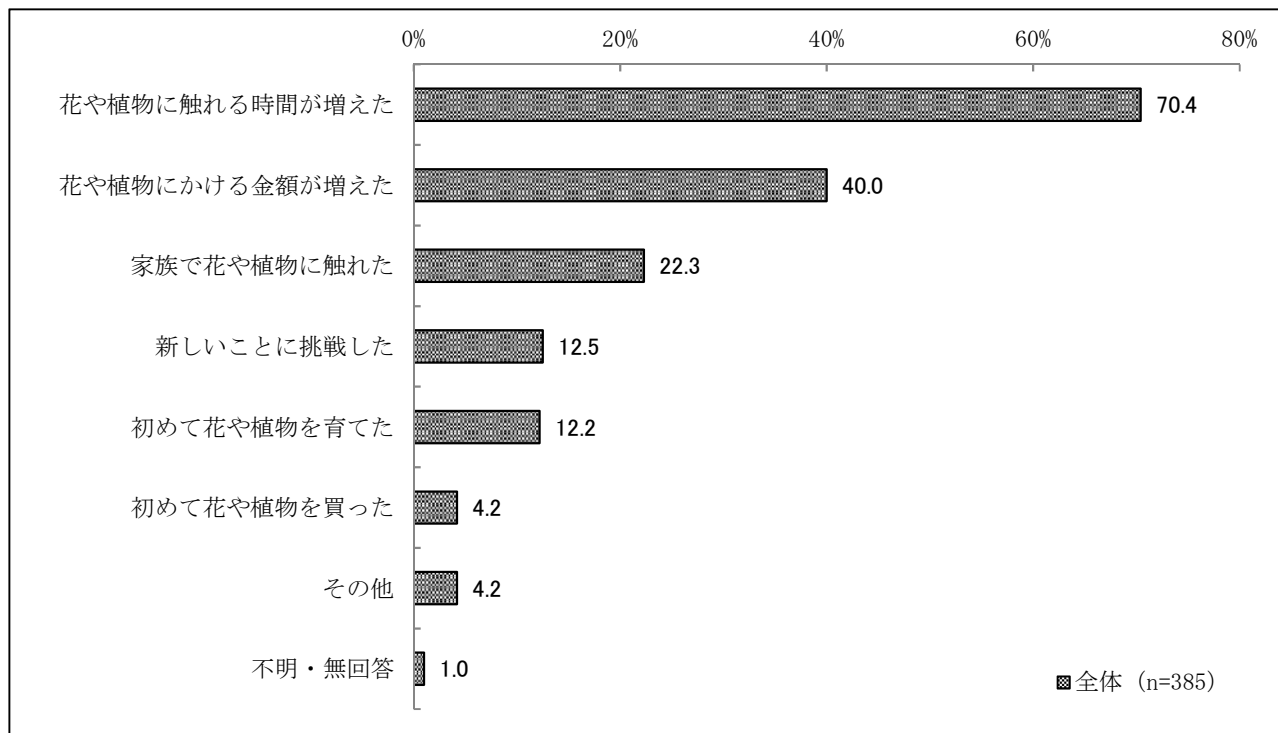
『高まった』と回答した割合は、75歳以上(21.9%)で最も高く、2割を超えた。

図 3-4 新型コロナウイルス感染症による花や植物への関心の変化（地区別/性別/年齢別）



(5) 花や植物とのかかわり

問13 上記問12で「1. 高まった」または「2. どちらかといえば高まった」と回答した方へ質問です。
あなたの、花や植物とのかかわりで、あてはまるものは次のうちどれですか。(〇はいくつでも)



— 7割以上が「花や植物に触れる時間が増えた」 —

【全体結果】

「花や植物に触れる時間が増えた」(70.4%)で最も高く、7割以上となった。次いで、「花や植物にかける金額が増えた」(40.0%)、「家族で花や植物に触れた」(22.3%)が続く。

【属性別結果】(次ページ図3-5参照)

① 地区別

「花や植物に触れる時間が増えた」については、江南区(81.3%)、南区(81.0%)で高く、8割を超えた。「初めて花や植物を育てた」については、南区(23.8%)で高い。

② 性別

「花や植物に触れる時間が増えた」、「花や植物にかける金額が増えた」の割合は、男性(各66.7%、32.5%)と比較して女性(各73.8%、43.7%)で割合が高い。

③ 年齢別

「花や植物に触れる時間が増えた」の割合は、65~74歳で8割半ばを超えた。「初めて花や植物を育てた」の割合は、年齢が低いほど割合が高くなる傾向にある。

図 3-5 花や植物とのかかわり（地区別/性別/年齢別） 1/2

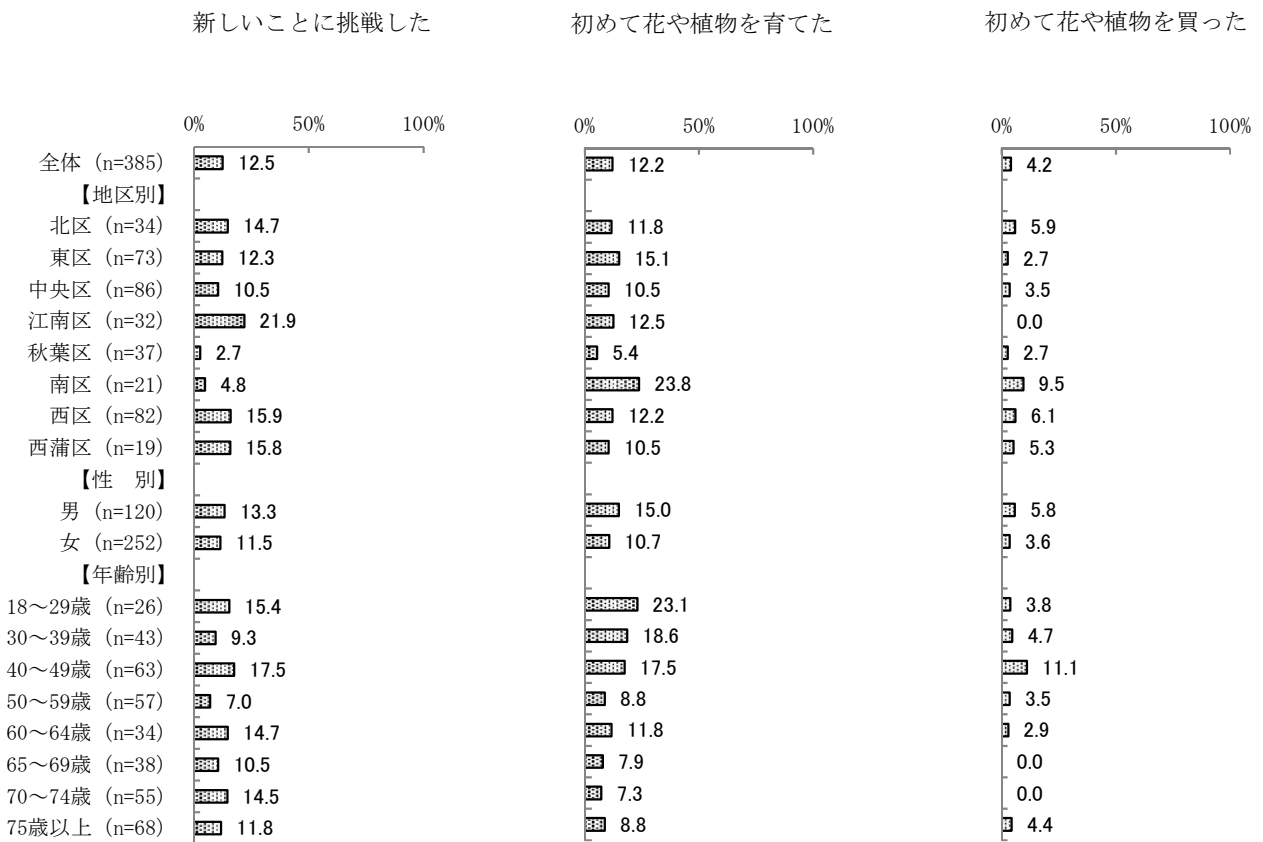
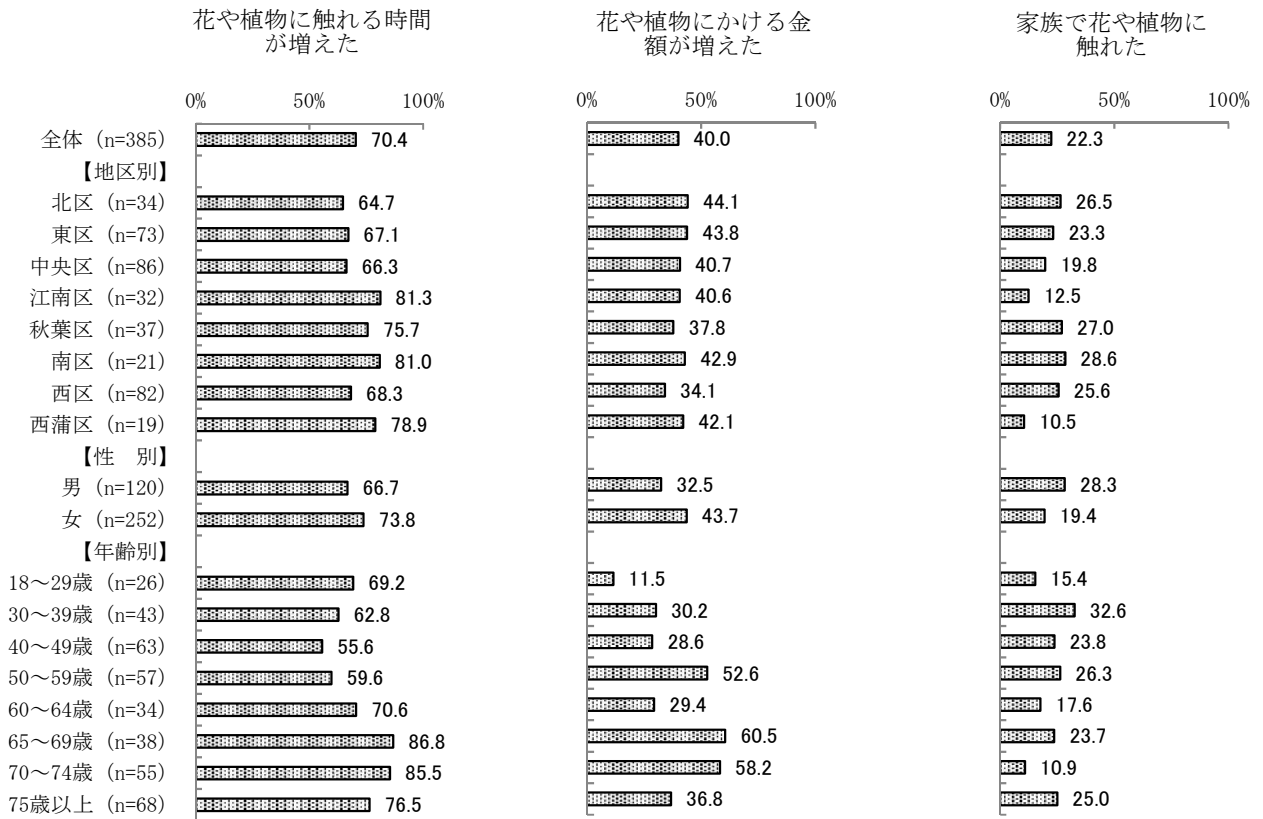
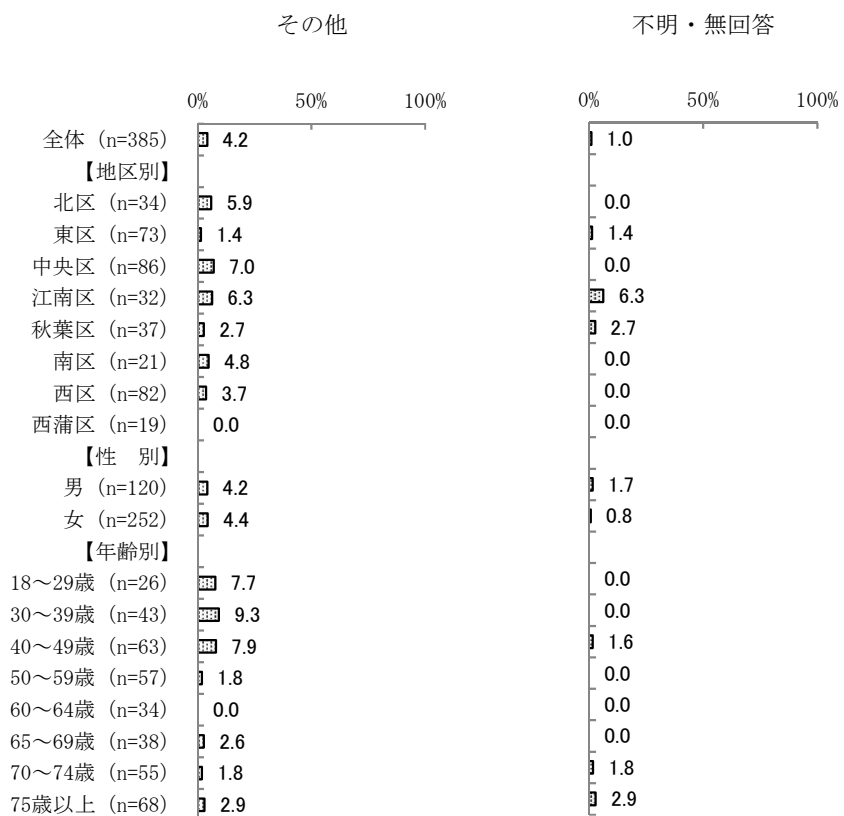
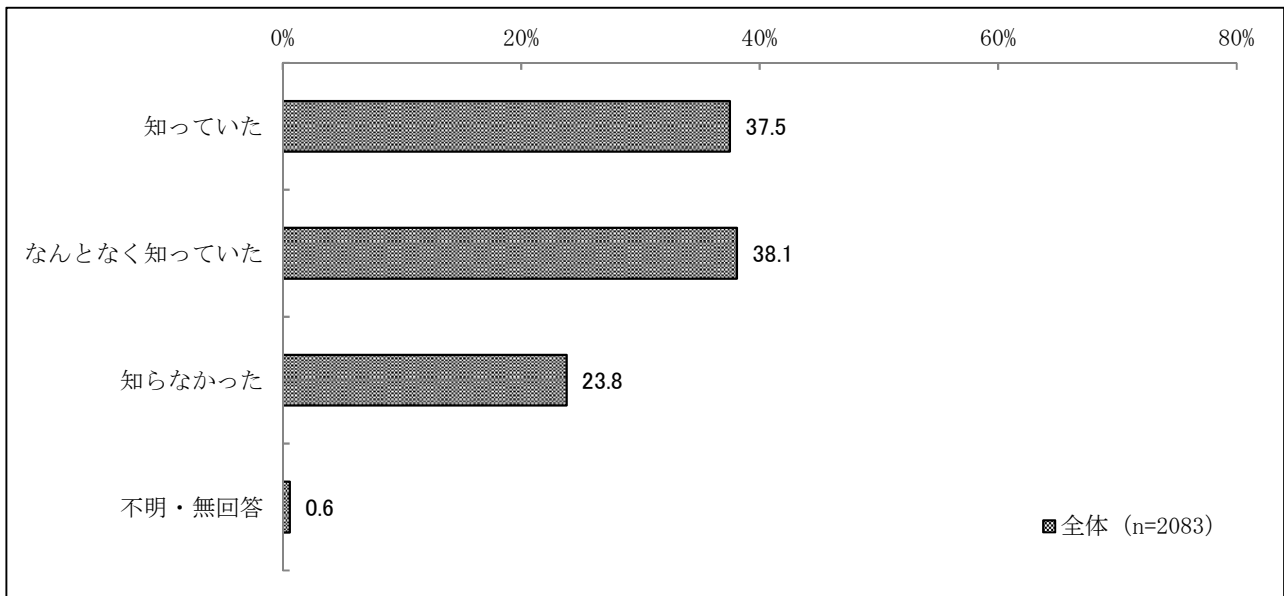


図 3-5 花や植物とのかかわり（地区別/性別/年齢別） 2/2



(6) 花の生産についての認知度

問14 あなたは、新潟市が花の生産が盛んであることを知っていましたか。(○は1つだけ)



— 7割半ばが『知っていた』 —

【全体結果】

「知っていた」(37.5%)、「なんとなく知っていた」(38.1%)を合わせた『知っていた』(75.6%)は7割半ばとなった。

【属性別結果】(次ページ図3-6参照)

① 地区別

『知っていた』の割合は、秋葉区(81.2%)で最も高く、その他の地区でも7割を超えた。

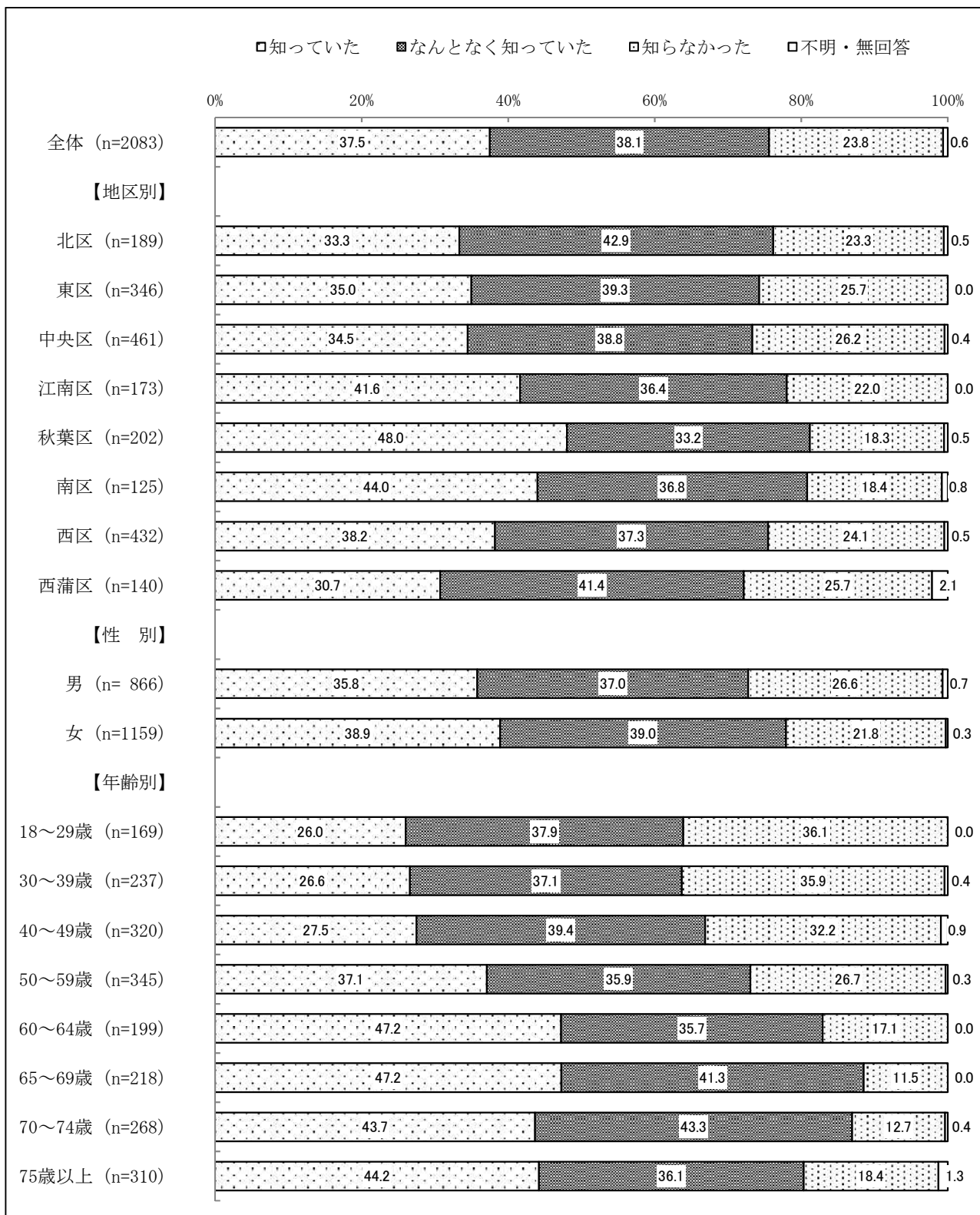
② 性別

『知っていた』は、男性(72.7%)と比較して女性(77.9%)で割合が高い。

③ 年齢別

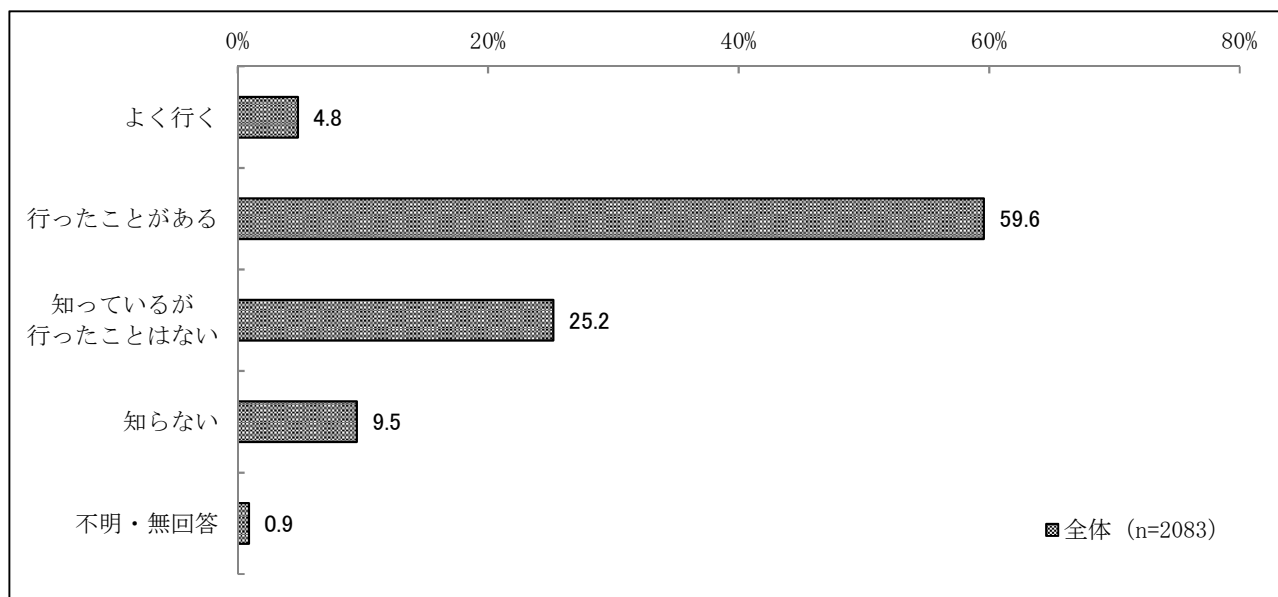
『知っていた』の割合は、65～69歳(88.5%)で最も高く、その他の年代でも6割を超えた。

図 3-6 花の生産についての認知度（地区別/性別/年齢別）



(7) 「いくとぴあ食花」のガーデンや「食育・花育センター」への来訪

問15 あなたは、「いくとぴあ食花」のガーデンや「食育・花育センター」に行ったことがありますか。(〇は1つだけ)



— 6割半ばが『行ったことがある』 —

【全体結果】

「よく行く」(4.8%)、「行ったことがある」(59.6%)を合わせた『行ったことがある』(64.4%)は6割半ばとなった。一方で、「知っているが行ったことはない」(25.2%)は2割半ばであった。

「知らない」(9.5%)と回答した割合は約1割となった。

【属性別結果】(次ページ図3-7参照)

① 地区別

『行ったことがある』の割合は、江南区(71.7%)と中央区(70.7%)で高い。

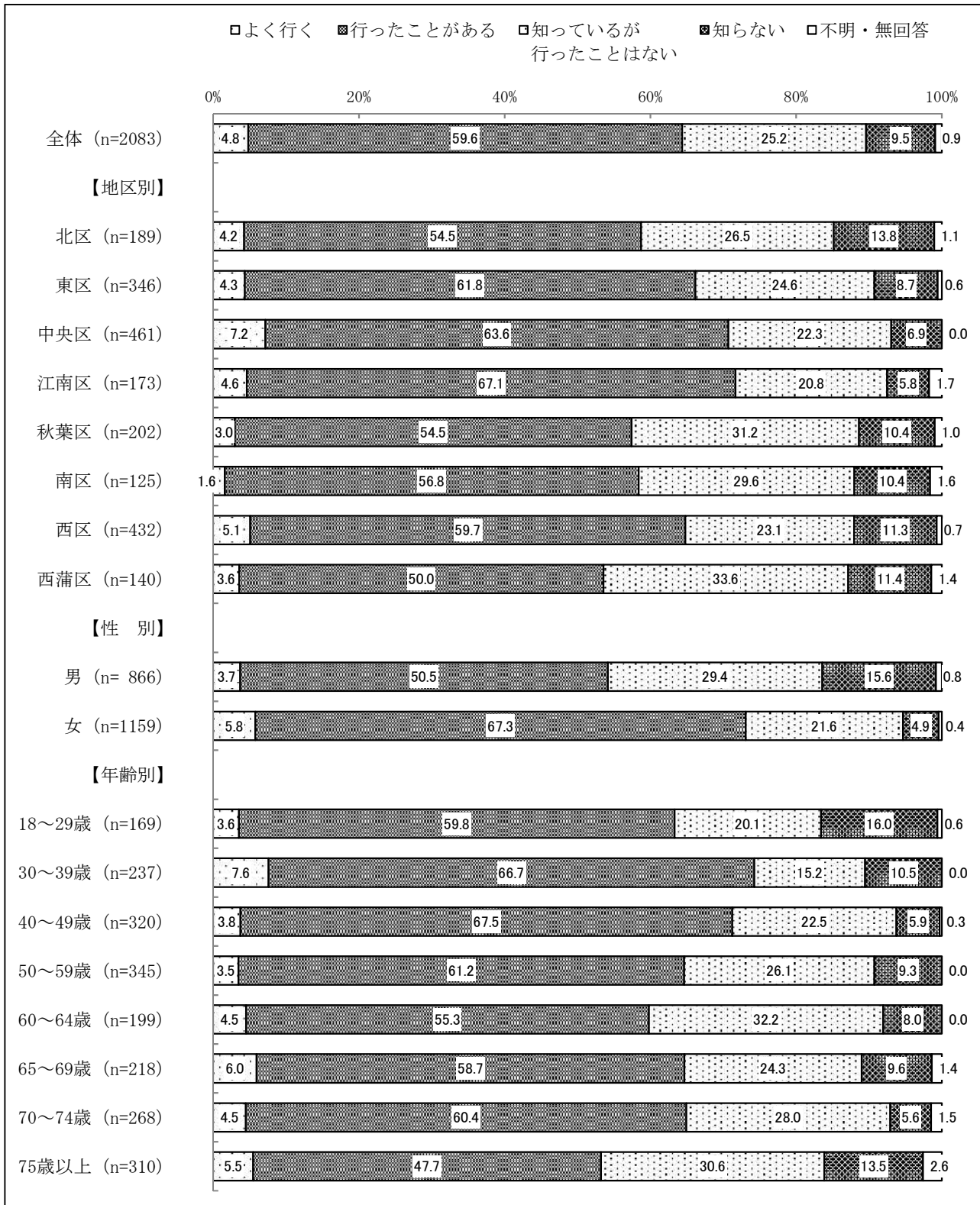
② 性別

『行ったことがある』は、男性(54.2%)と比較して女性(73.1%)で割合が高い。

③ 年齢別

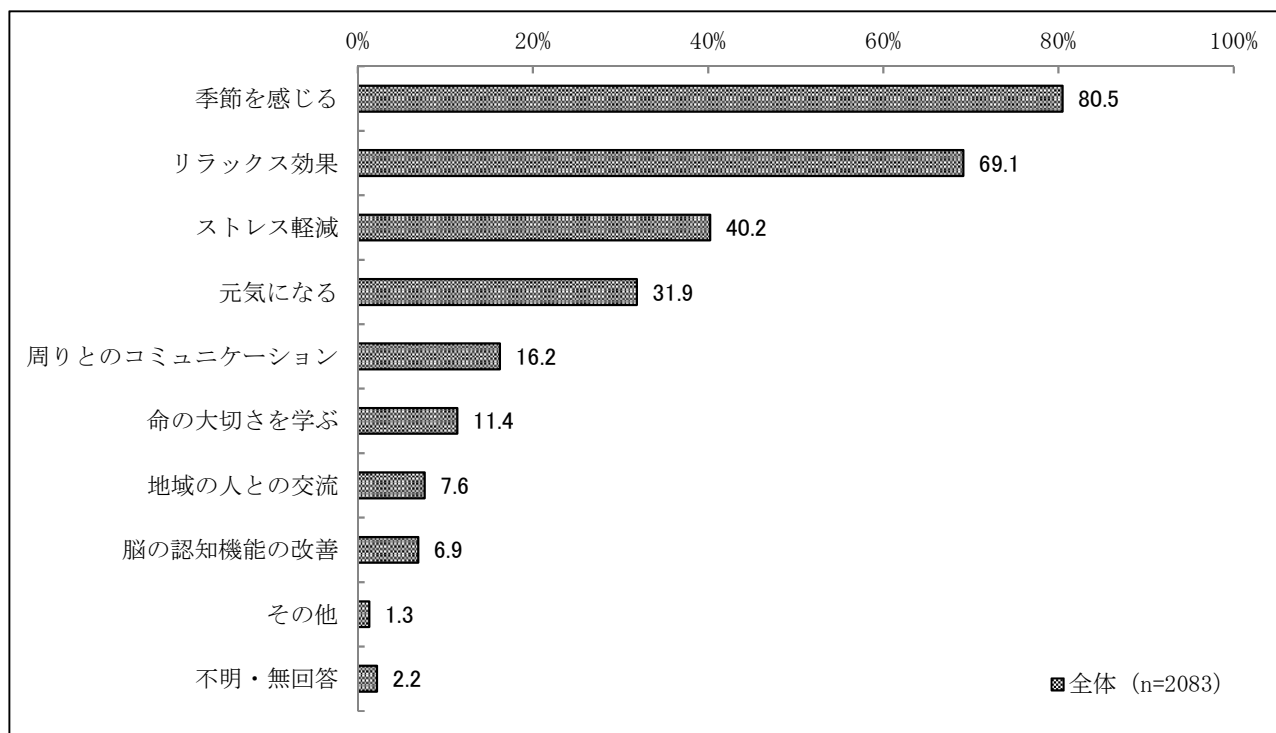
『行ったことがある』と回答した割合は30～49歳で高く、7割を超えた。

図 3-7 「いくとぴあ食花」のガーデンや「食育・花育センター」への来訪（地区別/性別/年齢別）



(8) 花や植物に触れることで期待できる効果

問16 花や植物に触れることで、あなたや周りの人にどのような効果が期待できると思いますか。
(〇はいくつでも)



— 約8割が「季節を感じる」 —

【全体結果】

「季節を感じる」(80.5%)の割合が高く8割を超えた。次いで、「リラックス効果」(69.1%)、「ストレス軽減」(40.2%)、「元気になる」(31.9%)の順に続く。

【属性別結果】(次ページ図3-8参照)

① 地区別

東区、江南区を除くすべての地区で「季節を感じる」の割合は、8割を超えた。

② 性別

「元気になる」は、男性(21.5%)と比較して女性(39.5%)で割合が高く差が大きい。

③ 年齢別

すべての年代で「季節を感じる」の割合が高く、7割半ばを超えた。「周りとのコミュニケーション」では、75歳以上(25.2%)で最も高く、年代が高いほど割合も高い。

図 3-8 花や植物に触れることで期待できる効果（地区別/性別/年齢別）

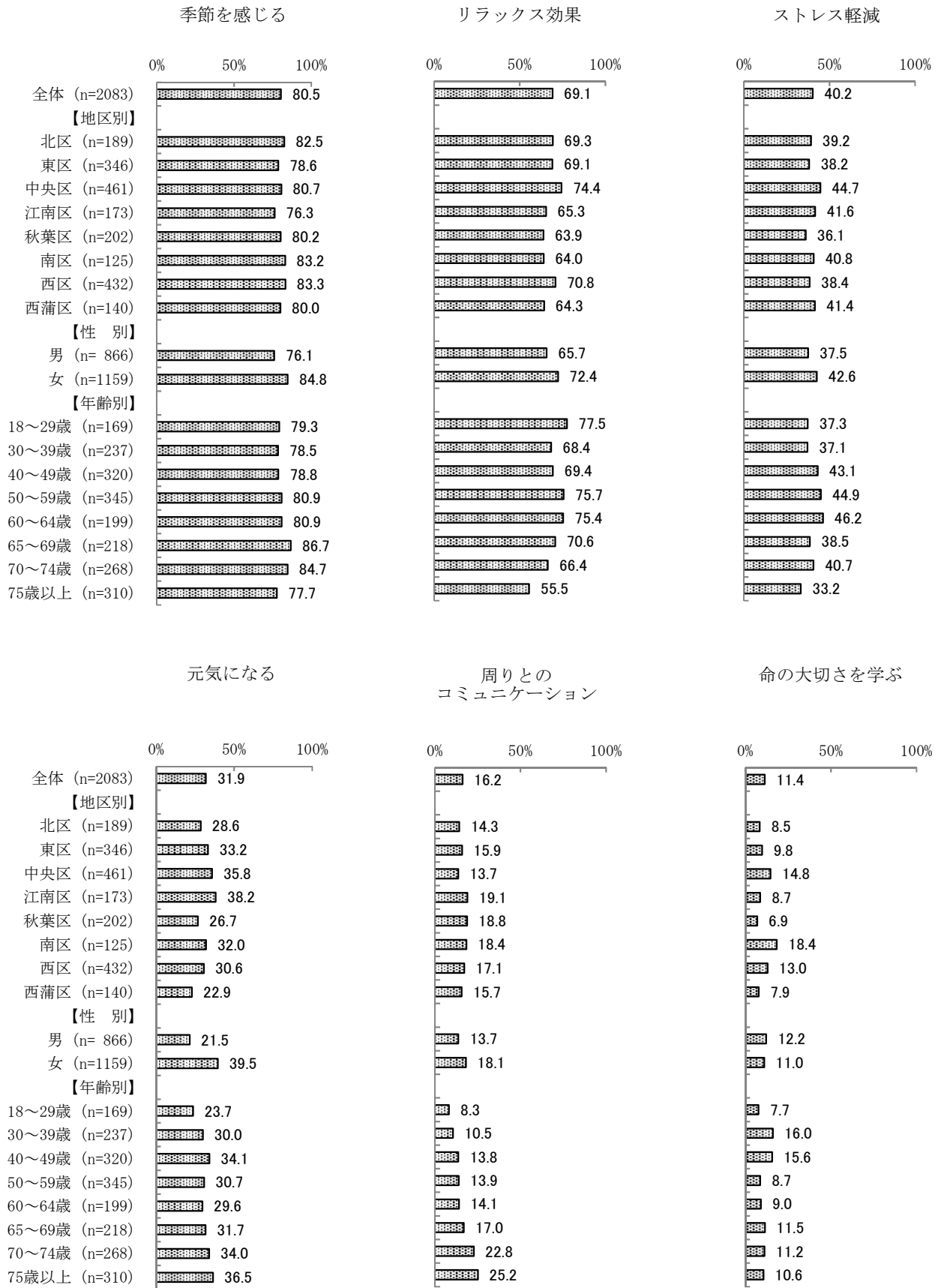
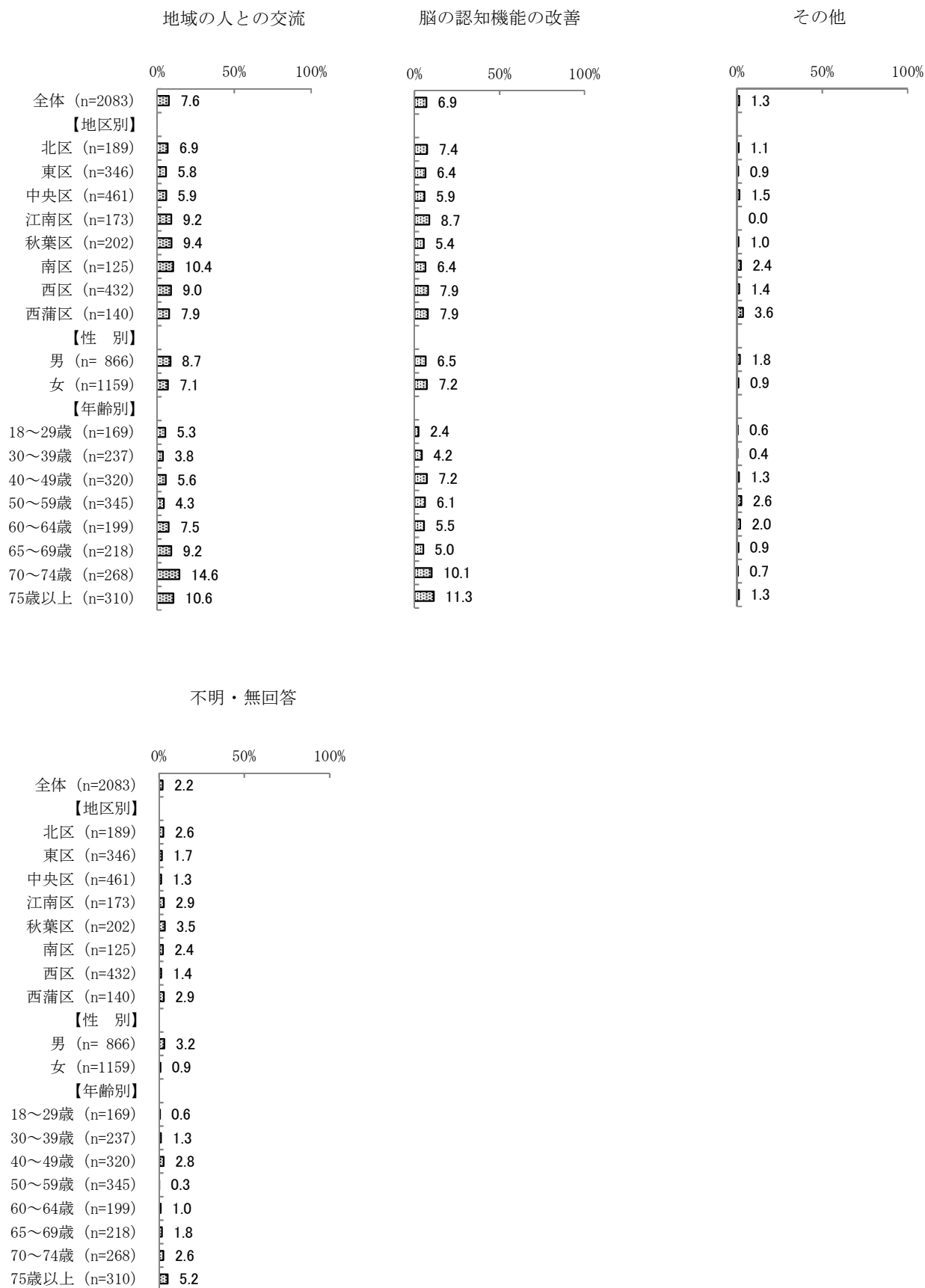
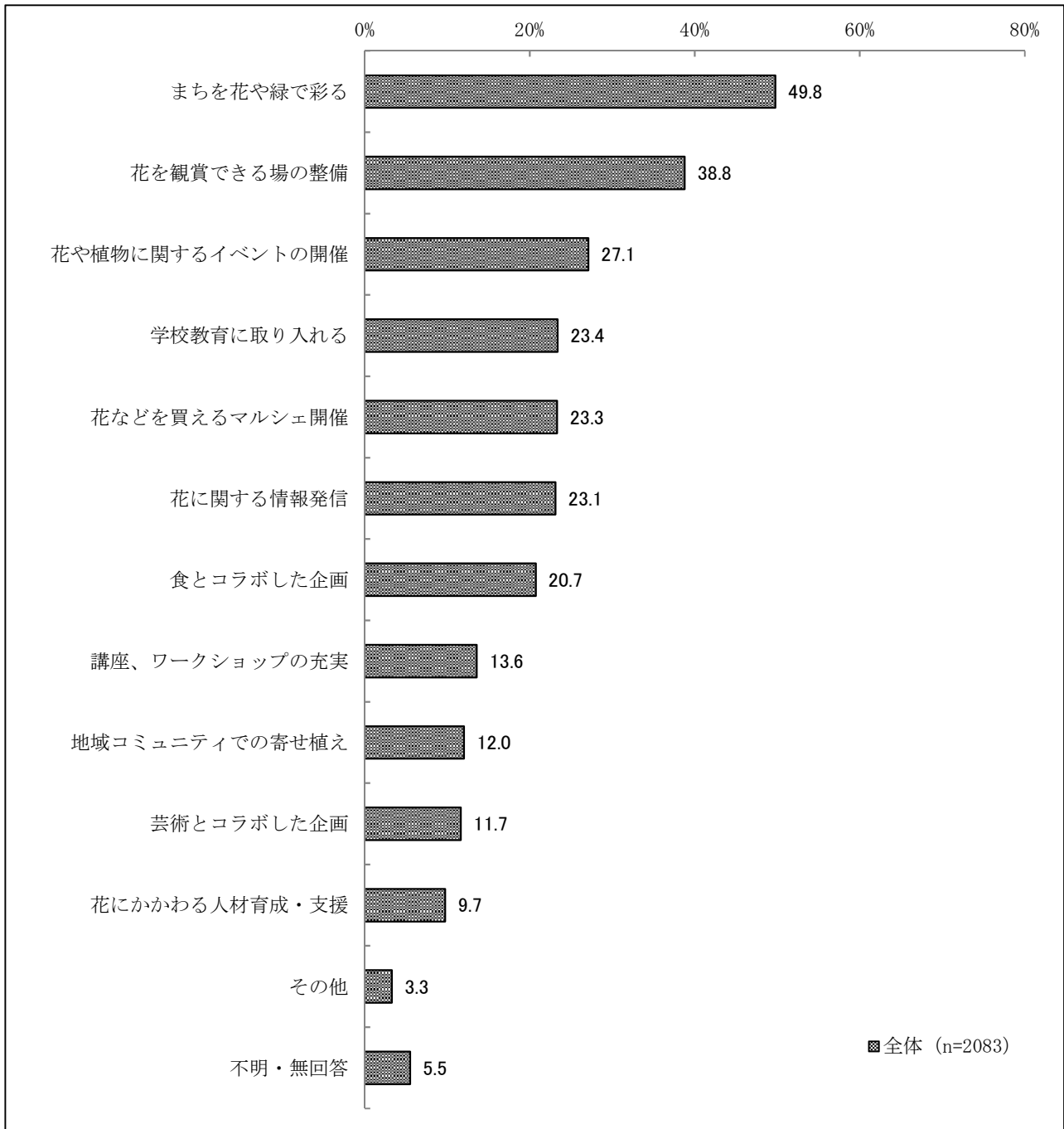


図 3-8 花や植物に触れることで期待できる効果（地区別/性別/年齢別）



(9)「花育」として市や「いくとぴあ食花」に期待すること

問17 あなたは、新潟市らしい「花育」として市や「いくとぴあ食花」にどのような取り組みを期待しますか。(〇はいくつでも)



— 「まちを花や緑で彩る」が約5割 —

【全体結果】

「まちを花や緑で彩る」(49.8%)の割合が最も高く、次いで、「花を観賞できる場の整備」(38.8%)が約4割となった。次に「花や植物に関するイベントの開催」(27.1%)、「学校教育に取り入れる」(23.4%)、「花などを買えるマルシェ開催」(23.3%)、「花に関する情報発信」(23.1%)、「食とコラボした企画」(20.7%)が2割台で続く。

【属性別結果】(次ページ図3-9参照)

① 地区別

「まちを花や緑で彩る」については、中央区(52.9%)で最も高く、他の地区でも4割半ばを超えた。

② 性別

「花などを買えるマルシェ開催」は、男性(14.7%)と比較して女性(30.1%)で割合が高く差が大きい。

③ 年齢別

「まちを花や緑で彩る」の割合は、18~29歳(55.0%)で最も高く、5割半ばとなった。

図 3-9 「花育」として市や「いくとびあ食花」に期待すること（地区別/性別/年齢別） 1/3

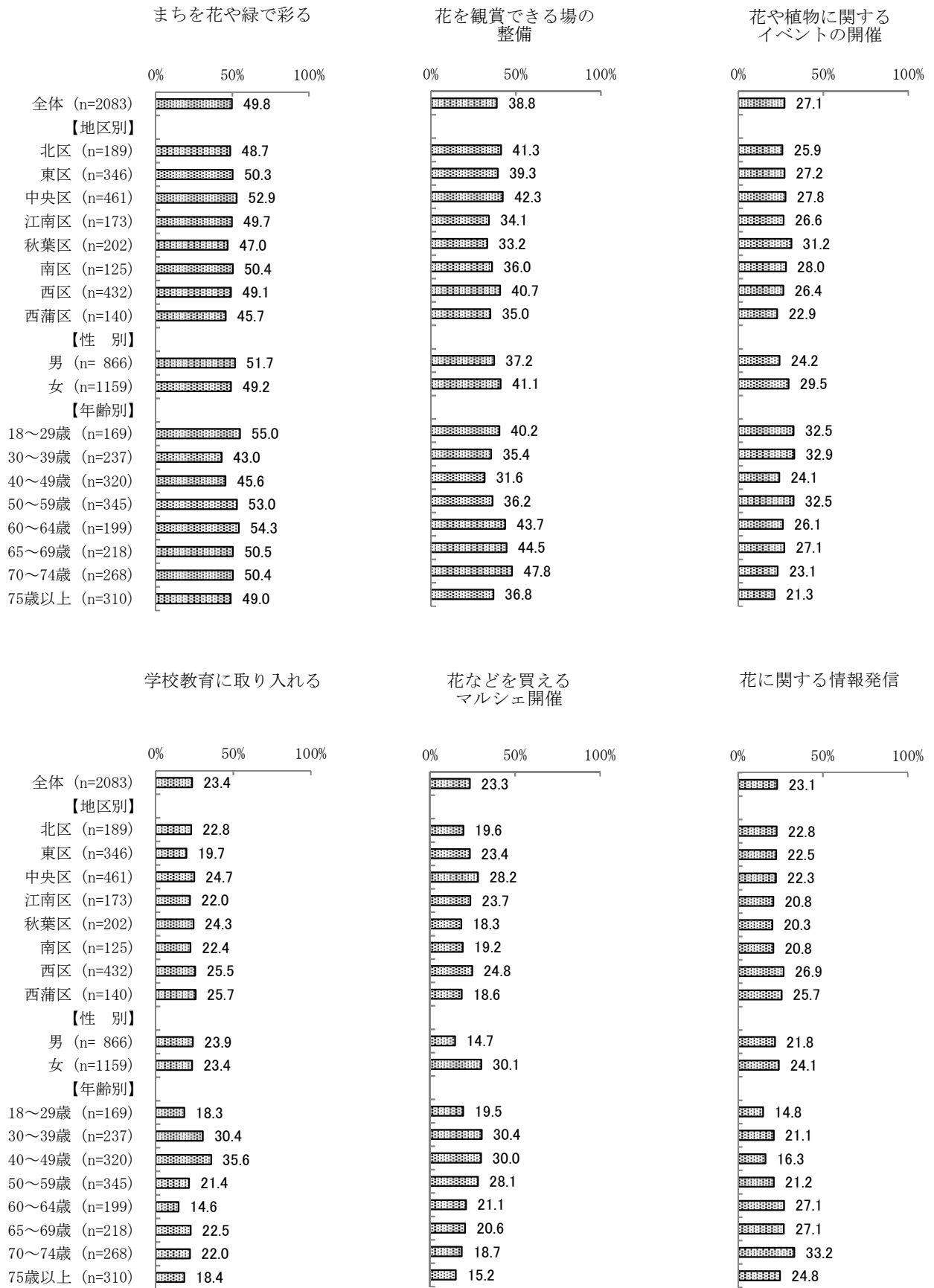


図 3-9 「花育」として市や「いくとびあ食花」に期待すること（地区別/性別/年齢別） 2/3

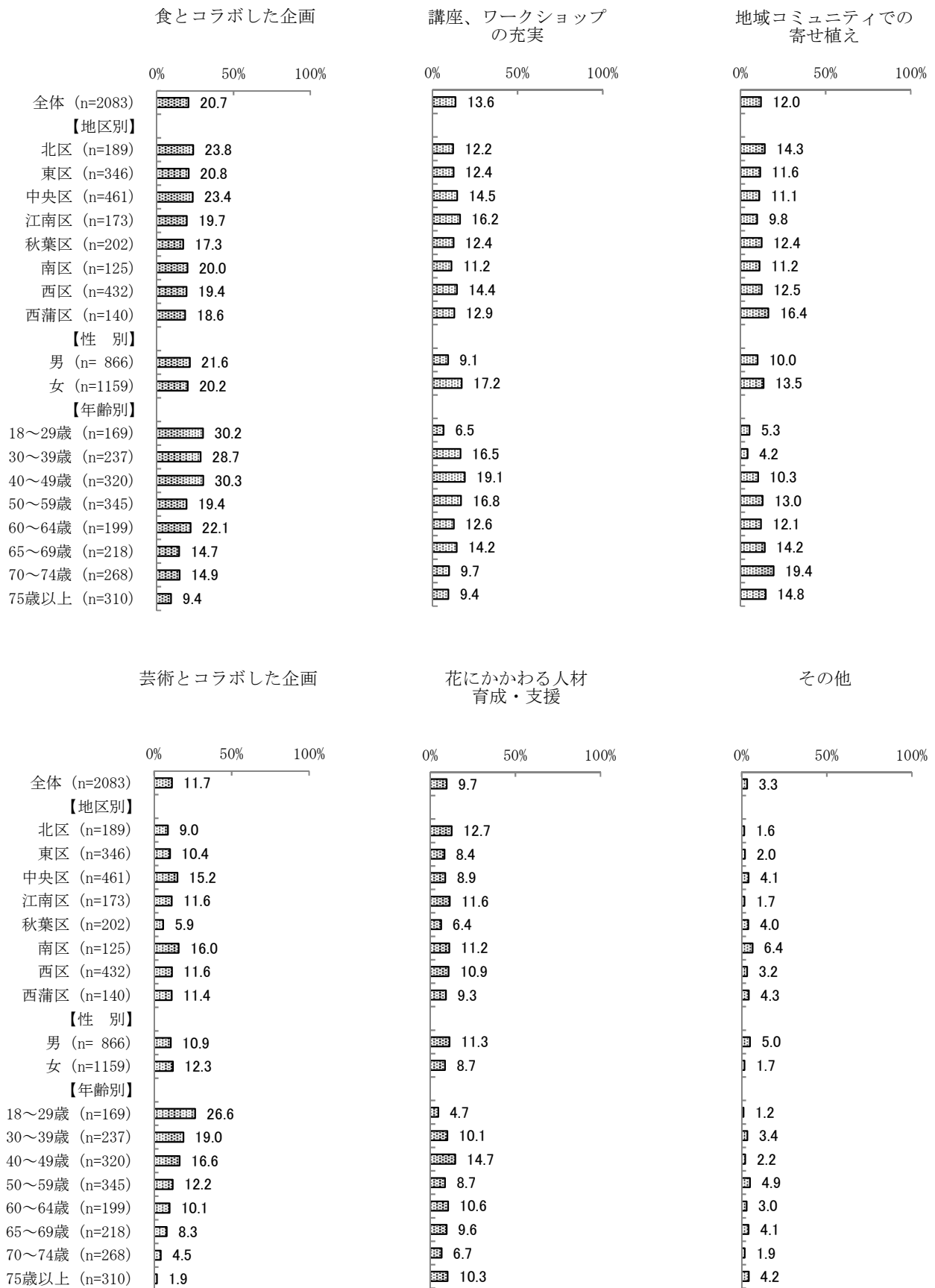


図 3-9 「花育」として市や「いくとびあ食花」に期待すること（地区別/性別/年齢別）

